

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 8月

作成者：古市陽香

作成日：2021 年 9 月 5 日

皆様、初めまして。この度令和2年度の福井県奨学生としてフィンドレー大学に留学させて頂いております、古市陽香（ふるいち はるか）と申します。今回奨学生としてこのような素晴らしい機会を頂けたこと、大変有難く思っております。福井県国際交流会館の方々をはじめ、フィンドレー大学の先生方など多くの方々にお力添えいただき、無事に渡米することが出来ました。多くの方々に支えられ留学が実現していることに感謝し、約10か月の留学生生活を大切に過ごしていきたいと思っております。また毎月の報告書を通し、福井県奨学生制度やフィンドレー大学の魅力をお伝えできればと思います。

【自己紹介】

私は福井県生まれ福井県育ちの生粋の福井人です。大学を卒業し看護師、保健師の資格を取得したのち、看護師として福井で勤務してきました。これまで看護師として勤務する中で外国人患者と接する機会が何度もあり、言語の壁を取り除き平等なケア・医療を提供するためにも、語学力向上の必要性を痛感していました。また学生時代から公衆衛生や予防医学、社会福祉分野に関心があり、アメリカ国内でも高い評価を受けるフィンドレー大学の Healthcare Management を学び、医療従事者として更なる知識の獲得を図るため留学を決断しました。

【フィンドレー大学の魅力】



左画像はフィンドレー大学のアーチを正面から撮影した写真です。見た通り非常に美しい建物で、構内には綺麗な花々が咲いていたり、リスが芝生を横切っていたりとまるで映画の世界に入ったかのように錯覚します。

キャンパスは広大な敷地を有しており、学生が自由に利用できるジムやプール、サッカー場やビーチバレーコートなど様々な施設が整っています。

図 1：フィンドレー大学アーチ正面

学生同士が親睦を深めたり、新たなコミュニティを構築したりするのに非常に役立っていると感じました。また構内には至る所に学習スペースが設けられており、一人ひとりに区切られた勉強スペースが用意されているのは勿論、グループ学習向けの個室が沢山あり、学生が勉学に集中できる環境が整っています。更に、構内には Security が駐在しており日頃から敷地内を巡回しているため、学生の安全を守り

安心して学業に専念できるよう配慮が行き届いていると感じました。またフィンドレー大学の特徴として、学科によってキャンパス内にある一軒家が教授のオフィス兼教室となっており、学生が授業を受けるために自分の学科の一軒家に出向き授業を受けるという仕組みがあります。これにはフィンドレー大学が発展した経緯が関係しており、生徒数が増え大学の規模が大きくなるに従い、大学周囲の家々を購入し規模を拡大していった過程があるとのことで、非常に興味深く感じました。

【授業について】

今学期は、International Student 向けの Writing のクラス、Social Work、Foundation of Health Education などの学部の授業を履修しています。フィンドレー大学では 2021 年 8 月時点で、新型コロナウイルス対策として建物内でのマスク着用が義務付けられています。初めはマスク装着により顔を覚えるのが難しく、声がこもって聞き取り辛いなどコロナ渦ならではの難しさを感じることもありましたが、少しずつその状況にも慣れつつあります。授業では紙の資料は殆ど使用せず、生徒はパソコンやタブレットを持参し授業に参加します。Writing の授業では、要約や文献解題の手法などを学んでいます。また、Social Work の授業ではアメリカの社会福祉制度、歴史背景、社会問題を、Foundation of Health Education では、健康教育に関する哲学や原理、健康教育者として必要な技能などを学んでいます。どの授業でも生徒同士で議論する時間や、意見を求められる機会がとて多く、毎授業聞き漏らすことのないよう必死です。授業終了後は必ず教授に授業内容や要点を確認したり、不明点を質問したりするようにしています。有難いことに教授は生徒に寄り添った指導をされる方ばかりで、留学生に対しても非常に丁寧に対応してくださり、毎回理解できるまで説明していただけます。またフィンドレー大学には日本語を勉強している学生もいるため、日本語授業のボランティアをしたり、日本語を学ぶ学生と交流するプログラムに参加したりするなど、積極的に現地学生と関わる機会を作ることが出来ています。

【シェアハウス】



図 2 : Paige と
手作りブラウニー

大学敷地内にある一軒家でアメリカ人のハウスメイト 2 人と日本人留学生 2 人の計 4 人で生活しています。それぞれ、Occupational Therapy、Equestrian、Theater、Healthcare Management と専攻が違うため、授業で学んだことを帰宅後報告し合い、様々な学問に触れる機会を作れています。また私の未熟な英語に対し、文法や言葉のニュアンスなどのアドバイスをくれるため語学力向上の点からみても非常に恵まれた環境だと感じます。

ハウスメイトは全員お菓子作りが上手で休日はお互いにブラウニーやマフィンなどを作り合ったり、一緒に食材を買いに

行ったりすることもあり、とても良い関係性が作れています。写真はブラウニー作りが上手なハウスメイトの Paige です。彼女の作るブラウニーは絶品です。

【Choir と Retreat】

今学期はアカデミックな学科に加え、Choir のクラスも履修しています。シェイクスピアの劇中曲や讃美歌など、時代やジャンルを問わず様々な曲が扱われ、約 30 人の生徒で練習しています。発声の仕方が日本とは異なり「口の奥で音を響かせてはいけない」と指導していただくのですが、中々難しく練習あるのみといったところです。また、先日 Choir を受講している生徒と「Retreat」に行ってきました。「Retreat」は馴染みのない言葉でしたが、ミシガン出身の友人に聞くと「住み慣れた土地を離れて、日常で疲れた心や体を癒す過ごし方のこと」だと教えてくれました。フィンドレーから車で 2 時間ほど移動すると今回宿泊した「Camp Otyokwah」に到着します。アメリカに到着してから毎日忙しく過ごしていたため、久しぶりにゆっくりとした時間を過ごすことが出来ました。昼間は歌の練習は勿論、バレーボールをしたり、池で泳いだり、カヌーをしたり、夜はキャンプファイヤーをしてお互いの夢や目標を語ったりして過ごしました。「カジノでミュージカル俳優になる」「農場を経営する」など皆様々な夢を持っていましたが、全員自分の夢をはっきり断言しているのが印象的でした。山奥の施設で周囲に建物や外灯がなく夜間は真っ暗になるため、じっくりと星を観察することも出来ました。キャンプファイヤーで自称靈感が強い Alex から怖い話を聞いてしまい、中々寝付けなかったのも良い思い出です。しっかりとリフレッシュでき、また生徒間の交流も深めることができました。今後とも新しいことに挑戦し自分らしく進んでいきたいと思えます。



図 3 : Camp Otyokwah の美しい風景



図 4 : Choir class 集合写真

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 9 月

作成者：古市陽香

作成日：2021 年 10 月 9 日

渡米してから約 2 か月が経ち、忙しくも充実した日々を過ごしています。朝晩は冷えることが多く、長袖を着る頻度も増えてきました。雷や雨の日も増え、夏の終わりを感じ少し寂しい気もしますが、一つひとつの季節を噛みしめながら大切に過ごしていきたいと思っています。今回の留学レポートでは、University Singers の活動、授業について、食文化交流、Ohio Saitama Global Speakers Program についてご報告します。

【University Singers の活動】

University Singers はフィンドレー大学の Choir を履修する学生から選ばれ、学校や地域で行われるイベントで歌を歌います。9 月は大学内で行われた学生の表彰式でアメリカ国歌とフィンドレー大学の校歌を、10 月は Homecoming breakfast というイベントで、合唱曲 3 曲とフィンドレー大学の校歌を歌いました。アメリカの国歌「The Star Spangled Banner」を覚えるにあたり、現地学生と歌詞の意味や背景を調べることで、国歌が何を指しているのか、聞き手はどのような想いで国家を聞いているのかを知ることが出来ました。また、現地生徒に日本の国家も披露したところ覚えていと言ってくれる生徒もあり、違う国籍同士でお互いの国歌の意味を理解し、歌えるようになってきたことを非常に嬉しく思いました。

【食文化交流】

アメリカに来て、私が何よりも恋しく感じるのは日本食です。福井で生まれ育ち、豊富な海の幸や山の幸、美味しいお米やお水をこれまで当たり前のように感じてきましたが、そのことを今はとても反省しています。日本から意地で持参した炊飯器が心の支えです。

やはり食は一つの文化であり、文化交流も兼ね休日に様々な国籍の友人と集まって料理を振る舞ったりシェアしたりすることも多く、今後は料理クラブを作り皆で多国籍の料理を作りレシピを教え合うことも検討しています。

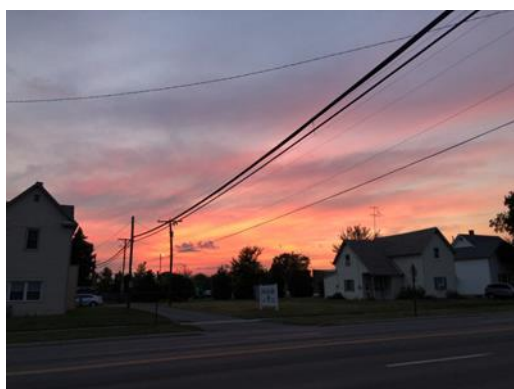


一番左の写真がデンマークのレシピのビーフシチュー、左から 2 番目の写真はザンビアとケニアのレシピでマンダジと呼ばれる揚げパン、ライス、チキンカレーとビーフカレー、そ

して右から2番目の写真は作ってくれた友人、一番右が日本の唐揚げです。他にも中国人の友人の土豆粿やアメリカ人の友人のツナサンドなど様々な料理をシェアしました。料理を通して、それぞれの国の味付けの特徴から物価、伝統的な行事などと話が広がっていくため、料理は一つのコミュニケーションツールだと感じました。

【授業について】

9月下旬から10月上旬はMid-termの期間です。図書館や構内の学習スペースでは集中して勉強する学生の姿が目に残ります。私も先週Social workのテストを受けました。テスト範囲はアメリカの社会福祉制度の種類や社会福祉士の役割、社会問題の現状など幅広く、最初は勉強の仕方に悩みましたが、同じクラスの生徒に勉強方法を教えてもらったり、皆で出題予想などを立てたりして臨んだことで、何とか成績を維持することが出来ました。学部



の授業に何とか参加出来ているのは、支えてくれる仲間のお陰だとしみじみ感じます。来週はHealth educationのMid-termが待ち構えているため、こちらもクラスメイトと協力しながらきちんと準備を進めたいと思います。

左図：図書館帰り19時半頃のフィンドレーの空

【Ohio Saitama Global Speakers Program dialogue】

この対談はzoomを使って行われ、アメリカで活躍されている経済分野とPublic health分野の専門家2名を招き、埼玉県の名の大学生とフィンドレー大学の現地学生が参加し行われました。まずは専門家から新型コロナウイルスが経済に与えた影響と、ハンコック郡とフィンドレーの新型コロナウイルスの捉え方や現状についてお話いただき、その後学生も交えて議論をするという流れで進みました。対談は全て英語で進むため聞き取れない部分もありましたが、それでもアメリカではPublic Healthに十分な資金が回っていない現状があることや、新型コロナウイルスに関するMisinformationが問題になっていることなどをお話いただき、実際にそれにどう対応しているかなど細かく説明していただいたため非常に興味深く貴重な経験となりました。アメリカの新型コロナウイルスへの対策やPublic Healthの介入は今後ともリサーチしたい分野のため、継続して情報収集と勉強を進めたいと思います。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 10 月

作成者：古市陽香

作成日：2021 年 11 月 9 日



10 月上旬から紅葉が始まり、フィンドレーの街は黄色や橙色、赤色など様々な色付いた木の葉や落ち葉で美しく飾られました。朝晩の冷え込みも増し、ダウンコートを着る機会も増えています。今月の留学レポートでは、Choir concert、ハロウィンパレード、Hancock Public Health Center の視察・インタビュー、2 度目の Ohio Saitama Global Speakers Program dialogue についてご報告します。

【Choir concert】

10 月 24 日に Choir と University singers のコンサートに参加しました。8 月に初めて楽譜を見た時は、メロディーの複雑さや英語の歌詞を前にコンサートで歌う自信は全くありませんでしたが、2 か月間の練習の成果もあり約 10 曲を歌いきることが出来ました。Choir を通して、学内ですれ違えば声を掛け合える友人が沢山でき、音楽を通して交友の輪を広げられたことをとても嬉しく思っています。コンサート本番は非常に緊張したものの、讚美歌独特の響きやオーケストラの音色が非常に心地良く、思い出に残る経験となりました。



発音やアクセントを細かく指導して下さった Jung 教授には大変感謝しております。

コンサートの様子は以下の URL から観ることが出来ます。興味がある方は是非チェックして下さい。 <https://youtu.be/AHB8Elx7ByY>

【ハロウィンパレード】

10 月に入ると色々なお店でハロウィングッズが店頭に並び、家々がカボチャを玄関先に

並べたり、庭や外壁の飾りつけをしたりしてハロウィンに向けて着々と準備を始めていました。フィンドレーでは毎年ダウントウンでハロウィンパレードが開催されており、私も友人達と一緒にハロウィンパレードを観に行きました。多くの企業や団体がトラックや車をユニークなコンセプトでハロウィン用にデコレーションし、仮装した人々と共に観覧者を楽しませていました。道路は交通規制がかかり、沢山の子ども達がキャンディを求めて集まっており非常に賑わいを見せていました。



【Hancock Public Health Center の視察】

先月の報告書でもご報告した Ohio Saitama Global Speakers Program dialogue で公衆衛生の専門家としてレクチャーをして下さった、衛生局長の Karim Baroudi 氏に直接インタビューをする機会をいただき、ハンコック郡の Public Health Center へ伺いました。ハンコック郡の Health department が実施している市民への健康調査や統計調査、具体的な介入や今後の計画などを教えていただきました。また、日本とアメリカでは公衆衛生がカバーする範囲に違いがあることや、新型コロナウイルスが流行してからの Health Center の動きを説明していただき、非常に貴重な経験となりました。日本とアメリカには様々な文化の違いがありますが、人々の健康意識を高め健康問題を解決するための行動変容アプローチには共通



点が多く、ハンコック郡が実施している様々な取り組みやプログラムは興味深いものばかりでした。

お忙しい中インタビューを受け Health Center 内を紹介して下さいました Karim Baroudi 氏をはじめ、質問に答えて下さった多くのスタッフの方々には本当に感謝しております。

今後もボランティアなど色々な形で公衆衛生や保健福祉を学ぶ機会を積極的に作っていきたいと考えています。

【Ohio Saitama Global Speakers Program dialogue vol.2】

新型コロナウイルスが与えた影響について、フィンドレー市の市長と医師の意見を拝聴しました。参加者には国際政治を専攻されている方もいたため、保健医療とは異なる観点から新型コロナウイルスやパンデミックの影響を深く考えることができ、大変勉強になりました。



本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 11 月

作成者：古市陽香

作成日：2021 年 12 月 9 日

11 月に入ってからフィンドレーの寒さは厳しさを増し、氷点下を下回る日も増えてきました。外気温に反し学内やシェアハウス内は非常に暖かく空調が管理されているため、気温差で体調を崩さないよう気を引き締めて過ごしていきたいと思います。今回は、Thanksgiving Weekend、学期末の授業、Voice Recital についてご報告します。

【Thanksgiving Day】



友人の Abi によると、Thanksgiving Day は家族、親戚、友人などが集まり、色々なことに感謝しながら食事を楽しみ、リラックスした時間を過ごす日とのこと。今年は 11 月 25 日が Thanksgiving Day でした。私は Abi のお家に招待していただき彼女のご家族と一緒に過ごさせていただきました。

Abi のご両親はとても料理上手で Thanksgiving の定番料理である、大きな七面鳥や、グリーンビーンズキャセロール、様々な種類のパイなど沢山の手作り料理を振る舞って下さいました。どれも非常に美味しく、食べて、寝て、食べて、お喋りやカードゲームを楽しみ、家族団欒の時間を一緒に過ごさせていただきました。

また食事の際には、何に感謝しているかを話すのがこの Thanksgiving Day の習わしだそうです。「Thank you for my job」や「Thank you for my amazing wife」等と話し、近況とともに感謝の想いを皆で共有しました。「ここはあなたのアメリカの実家だと思ってね」と温かく迎えて下さった Campbell 家には心から感謝しております。

Campbell 家滞在中にミシシッピ川に行きました。非常に川幅が広く、流れはゆったりとしていました。河川周辺には公園やボート施設があり、河川敷をランニングしている人も多く見かけました。世界三大河川の一つとして社会の授業で習った川を実際に見にいったことに感動しました。



【学期末の授業】

学期末に入り、授業内容は益々濃くなり課題の量も増えてきました。私は以前の報告書でもお話しした通り、今学期 International students を対象とした Writing のクラス 2 種類と、Health Education、Social Work、その他音楽系のクラスと日本語教育関係のクラスをとっています。

その中でも Writing のクラスではグループで Survey を行い、調査結果をまとめてプレゼ

ンすることが今学期の最終課題となりました。このクラスの生徒は全員第二言語として英語を話す生徒ですが、堂々と流暢にプレゼンする仲間を見てとても良い刺激を貰いました。

Health Education のクラスでは、実際にフィンドレーの公立小学校を訪問し、小学校での体育の授業内容や構成、教員の指導を見学しました。私が見学した学校では、毎回授業の前に生徒全員で右図の Sportsmanship code を読み上げるになっています。勝ち負けだけでなく、協調性や社会性を養うことに焦点を当てており、生徒同士応援し合ったり協力したりしている場面を何度も見かけ、集団活動での雰囲気作りや小児健康教育、コーチングに関し勉強させていただきました。また同クラスの最終課題は関心のある健康問題を一つ選択し、そのトピックに関する Research Paper とプレゼンを行うというものでした。私はタバコ喫煙に関する健康被害の現状とその対策について日本とアメリカの状況を比較し、Perfect score をいただくことが出来ました。



【Voice Recital】



教授の勧めもあり今学期は Voice Lesson のクラスにも参加していました。このクラスでは英語の歌に加え、今まであまり聴いたことのなかったイタリアの音楽に触れ、その発音やアクセントを細かく教えていただきました。Recital では Breakfast at Tiffany's でお馴染みの Moon River と Se tu m'ami というイタリアの曲を歌いました。立派なステージに立ち一人で歌うのは初めての経験で非常に緊張し足が震えましたが、綺麗なピアノの伴奏に助けられ歌いきることが出来ました。Recital 終了後に友人や教授から「良かったよ」と声をかけていただき非常に嬉しく思いました。

留学生活の前半戦が終了しようとしています。毎日必死で過ごしていたらあっという間に時間が経っていました。今後も悔いを残すことのないよう、チャレンジさせていただける環境に感謝し、丁寧に取り組んでいきたいと思っています。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 12 月

作成者：古市陽香

作成日:2021 年 12 月 31 日

2021 年 12 月のフィンドレーは、例年に比べ暖かいようで、積雪も少なく福井の雪を少し懐かしく感じます。留学生活も半年が過ぎました。今回は、語学力の変化、冬休み、春学期の計画をご報告します。

【語学力の変化】

2021 年 8 月から留学を開始し約 5 ヶ月が経過しました。多くの留学生が求めるように、私も留学の目的の一つに語学力の向上を掲げています。秋学期の学部の授業を通して、様々なトピックでエッセイを書いたり、授業内で意見交換をしたりしたことで、自分が使いこなせる表現が増え、使う頻度に応じてスムーズに言葉が出てくるようになりました。やはりネイティブスピーカー同士の会話のスピードは早く圧倒されますし、聞き逃したり聞き間違えたりすることもまだまだありますが、以前より一つひとつの単語をキャッチして文意を把握することが出来るようになってきたかと思います。授業を録音させていただいたり、理解出来なかった時は必ず質問に行ったりなどの工夫も変化の助けになったのではないかと思います。

フィンドレー大学の先生は生徒に寄り添おうとしてくださる方ばかりで、私の質問に毎回十分な時間を割いて丁寧に教えて下さいました。自分の未熟な英語力では、良いスコアは取れないと予想していましたが、秋学期の GPA は 4.0 をいただくことができ、生徒の努力を評価して下さいる教授の方々に非常に支えていただいていると感じました。

【冬休みの過ごし方】

冬休みは友人 2 人 (Paige と Desiree) の家に泊まらせていただき、またアメリカ国内を点々と旅して過ごしました。

Paige の家にお邪魔した際は、Paige のお父様が Port Clinton High School の校長先生だったこともあり、同じ高校で働くお母様とともに高校の中をツアーして下さいました。アメリカの高校の中に入るのは初めての経験で、驚きや発見が沢山ありました。特に Port Clinton High School には、テレビ局さながらの放送室や映像編集室、福井の文化会館と同規模の劇場など、学生の興味や関心を突き詰めるための設備が整っており、そのような学校で学べる学生を羨ましくも思いました。Paige は非常に優秀な Occupational therapy の博士課程の大学院生で、アメリカの医療現場について、大学院生としての生活、将来の計画を一緒に話しながら過ごせたことも刺激になりました。

また、Desiree の家に伺った際は Desiree のお母様が運営するデイケアに訪問させていただき、アメリカでデイケアがどのように浸透しているか、また地域の中での役割などを知ることが出来ました。Desiree のお母様が運営するデイケアは 0 歳から 10 歳までの子どもを対象にしており、幼稚園や学校とは別に子どもの成長・発達を促すカリキュラムが整っていました。更にお母様に直接インタビューをさせていただき、アメリカで女性が起業し企業を運営する大変さや、子どもの教育に関する問題点、COVID19 の発生に伴う子供の発達への影響などを伺うことが出来ました。



写真 1 : Smith 親子

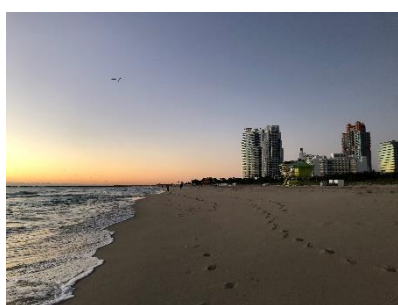


写真 2 : マイアミビーチ

その他にも、教授の勧めに従いマイアミ、ボストン、ニューヨークなど色々な都市を一人で巡り、アメリカの中でも都市が変われば文化が変わること、多様性とはいったい何なのかなど、新しいことに触れ、普段は考えもしなかったことに関心を持ちその土地その土地で出会った人と意見を交わして視野を広げることが出来ました。非常に充実した冬休みとなりました。

【春学期の計画】

春学期は、通常の学部授業に加え看護学科の transcultural care の授業に参加することや、Health Center でボランティア活動をさせていただくなどの計画をしています。また、以前から主観的健康と客観的健康の差異に関心があったため、一人ひとり「健康」の定義が異なっていることに着目し、The perception of Health というテーマで Survey を進めることになっています。

これまで日々の家族の支えはもちろん、友人や運にも恵まれ非常に充実した日々過ごすことが出来ました。今学期も奨学生として福井や日本の素晴らしさを伝えつつ、自分の留学の目的や軸をしっかりと持ち、留学に取り組んでいきたいと思います。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 1 月

作成者：古市陽香

作成日：2022 年 2 月 5 日

2 月 3 日の夜から 4 日にかけて Level 3 Snow alert の予報があり、大学が休校となりました。雪に備えて食料を備蓄する人や、道路状況を心配する人々の会話を通し、福井の冬を思い出しました。キャンパス敷地内は翌朝早朝から除雪機が動いたため、歩道が整備されるのも早くすぐに通常通り学校生活を再開することが出来ました。色々な方々に学校生活を支えていただいていることを痛感します。今回の報告レポートでは、今学期の授業、Hancock Public Health Center での Job shadow・ボランティア活動についてご報告します。



写真 1：フィンドレーの雪景色

【今学期の授業】

今学期の授業は、International Student 対象の English Writing のクラスに加え、Speech、Transcultural Care of Diverse Populations などのクラスを選択しています。今期の Writing の授業では、リサーチペーパーや論文などを書き上げる時に必ず重要になるエッセイフォーマット（APA スタイル）を学んでいます。様々な授業でエッセイやリサーチペーパーの提出が求められる、エッセイフォーマットが間違っていると大幅な減点に繋がります。アメリカで大学生活を送るには必要不可欠な知識を丁寧に教えていただいています。

Speech Class では、スピーチをする場面（フォーマル・インフォーマル）やトピックに合わせて、どのように説得力のあるスピーチを組み立てるか、リソースの取り扱いなどを学んでいます。先日初回のプロセススピーチの発表を終え、浴衣の着付けの方法をレクチャーしました。英語で帯の結び方など一つひとつの細かな動作を説明することは初めてであり、今まで使わなかった英単語や表現に出会いました。クラスメイトの中には初めて浴衣を見た生徒も多く、特に帯でリボンを作る過程は興味津々で聞いてくれたため、時折躓きながらも何とか最後までプレゼンすることが出来ました。「良いプレゼンテーションは才能のある話者だけでは作れず、オーディエンスとともに作り上げるものだ」という教授の言葉がとても響きました。

Transcultural Care of Diverse Populations のクラスは看護師を志す生徒の必修科目です。アメリカは言わずと知れた Diverse Society であり、様々なバックグラウンドやカルチャーを持った人々が住んでいます。この授業では色々な人種や民族を扱い、文化が変われば健康や病気に対する考えはもとより、時間や空間に対する概念や価値観が変わるという前提の元、看護師として自分と異なる文化背景のある人をケアする上で知っておくべき知識を学びます。Medical anthropology にも似た学問だと感じています。これまでアフリカンアメリカン、メキ

シカンアメリカン、Navajo の人々について勉強しました。例えば Navajo の文化ではアイコンタクトを最小限に抑えるため、看護師はケアを提供するときに長く頻回なアイコンタクトは避けるということや、Navajo の文化では死体に触れることはタブーとされているため臓器・細胞移植には否定的な可能性があるとのことでした。新鮮な学びが多く日本とアメリカの看護師のカリキュラムの違いを感じながら、毎回興味深く拝聴しています。

【Hancock Public Health Center でのボランティア活動】

昨年、Hancock Public Health Center の Karim Baroudi 氏にアメリカでの COVID-19 対策や Public Health Center の機能に関するインタビューをさせていただき、その繋がりからヘルスセンターで Job Shadow とボランティア活動をさせていただくことになりました。

先日は、School Immunization Requirement に関する全州参加のオンライン会議と一緒に参加させていただきました。また Health Center 内のクリニックにて COVID-19 ワクチン接種の現場をみせていただき、ワクチン接種のデータを Ohio Department Health に報告するためのチャートや、ワクチン投与ミスを防ぐために工夫していることなどを教えていただきました。Hancock Public Health Center ではワクチン接種を予約制で行っており、主に電話にて予約を受ける形をとっていました。更に、精神疾患や障害など様々な理由で外出できない方へのワクチン接種サポートに関しては、対象者やその家族から電話で依頼を受けた場合は Health Center の看護師が自宅や施設まで訪問しワクチン接種の機会を提供しているとのことでした。日本のシステムとの違いや Health Center の機能を深く学ぶ貴重な機会をいただいています。お忙しい中、あたたかく受け入れて下さっている Hancock Public Health Center のスタッフの方々には心から感謝しています。今後も定期的に Health Center で Job Shadow とボランティア活動を行い、看護師・保健師に留まらず、多職種の仕事内容や他機関との連携等を学びたいと考えています。学業と上手く両立しながら色々なことに挑戦し、学内外問わずより多くの経験を得る機会を作っていきたいです。



本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。

furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 2 月

作成者：古市陽香

作成日：2022 年 3 月 10 日

駐車場に積もっていた雪も全て溶け、陽の光を心地よく感じる日も増えてきました。今年のフィンドレーの冬は比較的暖冬とのこと。友人や先生方と春が来るのを心待ちにしている日々です。今回の留学報告レポートでは、Vanburen Elementary School での Health Education Program、Spring Vacation、ボランティア活動についてご報告いたします。



図 1：3 月の窓の外の風景

【BalanceMyDay】

BalanceMyDay とは The Ohio State University の College of food, agricultural, and environment sciences が計画・提案した Health Education Program であり、2 月下旬に Hancock Public Health Center の Health Educator が実施するワークショップを見学させていただきました。Hancock Public Health Center の Health Educator は栄養学の研修を修了した Registered Nurse 1 名が担っており、ハンコック郡内の複数の小学校を担当されています。BalanceMyDay の目的としては、食習慣が確立される幼少期に栄養指導・健康教育を行い、食事・栄養に関する正しい知識を提供することです。プログラムは複数回実施され、食物に付着する細菌・バクテリアや、野菜・果物の栄養素、乳製品、タンパク質、穀物など豊富なジャンルのワークショップで構成されています。私が参加した回は穀物の回であり、穀物の種類、栄養素、実際の味（試食のコーナー）、食品栄養成分表の読み方などを説明していました。私が視察したクラスは小学 3 年生の 1 クラス 30 人のクラスであり、6 クラス分のワークショップを視察しました。白い小麦のパンとライ麦パンの栄養素の違いや、栄養素の高い穀物の選び方を学んだ生徒からは、「家族が買わないから白いパンしか食べてなかったけど、茶色いパンもおいしい」という声や、「茶色の食べ物は不味いと思っていたけど、ちゃんと甘い！びっくりした！」という感想が聞かれました。Health Educator の Jessicaさんは、「食習慣は一種の文化であり家族の習慣に大きく影響されるため、家族が健康的な食生活をしていない場合、野菜の味や果物、ブラウン・ブレッドの味を知らずに育つ子どもがいる。そういった子どもたちが、このプログラムを通して健康的な食べ物の味に親しみを感じ、将来の食事選択が少しでもプラスになるようにしたい。」と話されていました。Health Education Program を通して、プログラム作りの工夫やプレゼンテーションの構成なども学ぶことができ、非常に有意義な経験となりました。

【Spring Vacation】

春休みは友人等とナイアガラの滝をみにニューヨーク州へ行きました。フィンドレー大学から車で片道 5 時間、長距離運転をしてくれた Abi に感謝です。到着した時は夕暮れ時で、陽の光が川を照らし、川波がきらきらと光って見え非常に綺麗でした。またナイアガラの滝の迫力は言うまでもなく、地面から振動を感じるほどの大きな音を立てながら流れ続ける滝の勢いに感動しました。ナイアガラの滝が形成された歴史や、滝と共にこの土地で暮らしてきた人々の生活に思いを巡らせ、とても神秘的に感じました。滝しぶきが凍って顔にあたり、皆で真っ赤な顔になりながら写真を撮ったのも良い思い出です。非常に寒いから覚悟するようにと噂で聞いていたため、手袋 2 枚、靴下 3 枚、洋服 6 枚重ね着をして向かいましたが、それでも冬のナイアガラの滝には太刀打ちできず、霜焼けになりました。またあたたかい季節に是非訪れたいと思います。

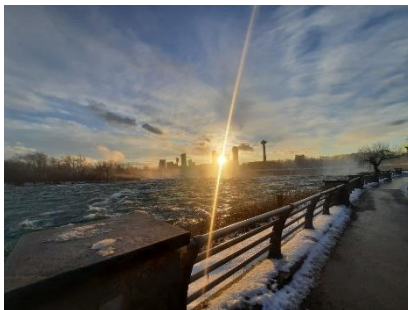


図 2 : Niagara River



図 3 : Niagara Trip した友人達

【ボランティア活動】

Hancock Public Health Center でボランティア活動を開始してから数か月が経過し、少しずつスタッフの方々とも打ち解けて話ができるようになってきました。陽香という名前の発音が難しいということで、私の名前の由来から Sunny というニックネームを付けて下さり、センターに行く度に「Hi Sunny!」と声をかけてもらえるようになったことをとても嬉しく感じています。3 月上旬の Hancock Public Health Center 内のクリニックの状況としては、新型コロナウイルスワクチン接種予約は 1 日 2~3 件程度、定期予防接種の対応が主になっています。先日、疾病対策予防センターがマスク装着に関する新規定を発表したことを受け、ヘルスセンター内でもマスク装着は本人の自由となっており、現場スタッフからはマスクを外して業務をすることへの不安ではなく、「ようやくマスクなしで生活できることが純粋に嬉しい」とマスク装着義務から解放されたことへの喜びを語っていたことが印象的でした。

今月からは大学内のヘルスセンターでもボランティア活動をする機会をいただけるとのことで、一つひとつの経験を大切にしっかりと学びを広げていきたいと思っています。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生月例報告書 3 月

作成者：古市陽香

作成日：2021 年 4 月 8 日

学期前から春学期は秋学期よりあっという間に過ぎると話には聞いていましたが、本当に時間経過が倍速になったように感じます。留学生活も残すところ約 1 カ月となり悔いを残さぬよう、学内外を問わずやりたいことにチャレンジさせて頂いています。今月は、Blanchard valley hospital の病院見学、フィンドレー大学で開催されたシンポジウムでの研究発表、Casiano Health Center でのボランティア活動についてご報告します。

【Blanchard Valley Hospital の病院見学】

先日、フィンドレー大学から車で 10 分ほどの場所に位置する Blanchard Valley Hospital を訪問し、Chief Quality Officer である Dr. Kose に病院内を案内していただきました。小児科、ICU、呼吸器内科、産科・婦人科、精神科を主に見学させていただき、各科の医師や看護師にお話を伺わせていただきました。アメリカの病院を訪問するのは初めての経験であり、様々な発見がありました。フィンドレーの新型コロナウイルス感染者数が減少傾向であることも



上図 1：Blanchard Valley Hospital

影響してか、外来、病棟共にとても落ち着いており、ナースコールや離床センサーの音がほとんど聞こえなかったことがとても印象的でした。呼吸器内科をまわった際には気管支鏡検査を見学させていただき、医師、Physician Assistant、看護師がどのように連携しているかも実際に観て学ばせていただきました。更に精神科の病棟では、Nurse Practitioner として勤務されている Ms. Bakies とお話しする機会をいただき、日本にはない職位である Nurse Practitioner として働くやりがいや苦勞、アメリカの精神科医療に関するお話を伺うことができ、非常に貴重な時間を過ごすことが出来ました。病院見学後は、Dr. Kose と一緒に見学をした奨学生の島田さんと昼食を共にし、Dr. Kose のこれまでの医師・弁護士としてのキャリアやアメリカの医療事情などのお話を伺うことができました。Dr. Kose の穏やかで人を集めるような素敵な人柄と、医療やヘルスケアに対する熱意に尊敬の念を抱くとともに、私も自分の専門分野だと胸を張って言えるものを確立し、それを突き詰めていきたいと感じました。

【シンポジウムでの研究発表】

フィンドレー大学で行われた Symposium for Scholarship and Creativity で、春学期を通して研究してきた内容の Oral Presentation を行いました。この日は Symposium のために大学が休校となり、思う存分他学生の研究発表を聞き、学びを広げられる日です。私のテーマは“The Perception of Health：健康の知覚（人はいつ、どんな時に健康だと認識するのか）”

と設定し、Ethnographic approach を採用しインタビュー調査とオンラインアンケート調査を実施し、フィンドレー大学の学部生を対象にリサーチを行いました。研究を進めるなかでデータが思うように収集出来なかったことや、1人につき 30 分ほどのインタビュー回答を英語で全て書き出すことなど、条件的、時間的にも様々な困難がありましたが、スポンサーになって下さった川村先生に何度も助けていただき、発表までに何とか形にすることが出来ました。発表の直前までスライドやプレゼンの構成を繰り返し見直し、英語で上手くプレゼンが出来るのか、途中で頭が真っ白になったらどうしよう、と失敗することへの恐怖心を幾度となく感じました。プレゼン本番は友人やインタビューに協力して下さった方々が聞きに来てくださったお陰で、何とか落ち着いて最後までやり切ることが出来ました。留学に来る前は、多くの人の前に立ち英語で研究報告をする自分の姿は想像できませんでしたが、これまで支えて下さった先生方や友人達のお陰で一つの大きな目標を達成することが出来ました。恵まれた環境で勉強させていただけていることを非常に有難く感じます。また今回の研究では多くの課題が残りましたが、得られた結果は非常に興味深く、今後更に大学院などで研究を深められればと思っています。



上図 2: Presentation の Certification

GUPTA (CBSL 237)

The Perception of Health among College Students in Northwest, Ohio

Haruka Furuichi

Sponsor: Hiroaki Kawamura

Can we draw a line between being healthy and not healthy only based on biological data? In 1948, The World Health Organization (WHO) defined health as "a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity." This holistic definition covers not only biological but also psychological and social variables. What makes people feel "I'm healthy?" For this ongoing study, college students were interviewed with the aim of developing an understanding of their perception of health. The study also tries to understand what students think they would need to have access to in order to be healthy. With the ethnographic approach, this study collected and analyzed qualitative data on the perception of health through interviews. The findings have implications for developing a wellness program for college-age adults in the future.

上図 3: 研究要旨

【Casiano Health Centre でのボランティア活動】

3 月からフィンドレー大学のヘルスセンターでもボランティア活動を開始しました。このヘルスセンターでは、大学の学生は勿論、大学スタッフやその家族も基本的に無料で診察が受けられます。診察室の環境整備や診療補助などをさせていただいていますが、Equestrian が有名なフィンドレー大学ならではの落馬した生徒の症例や、フィンドレーに生息する植物などでの皮膚疾患等をみることもあり非常に勉強になっています。

他にも Hancock Public Health Center でのボランティア活動の一環として、HelpMeGrow という取り組みで育児支援目的の家庭訪問へ同行し、また 3/31 に Bowling Green State University で行われた 2022 BGSU Public & Allied Health Symposium に参加したりなど、非常に内容の濃い 1 カ月となりました。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021 - 2022 フィンドレー大学・福井県奨学生 月例報告書 4 月

作成者：古市陽香

フィンドレーにも春が訪れました。木々の緑がとても眩しく、青く高い空に映えています。月例報告書を書くのもこれが最後だと思いと、とても感慨深く感じます。

4 月末から 5 月前半は期末試験や各クラスのファイナルプロジェクトのために暇さえあれば勉強という日々ですが、友人達と励まし合いながら、忙しいながらも充実した日々を送っています。今月はパブリックライブラリーでの書道教室、病院見学、団体の結成、フクビ USA の表敬訪問についてご報告させていただきます。



図 1：Health Center での Job shadowing 最終日にいただいたギフト (Buckeye)

【書道教室】

フィンドレーにあるパブリックライブラリーから、日本の書道を教えてくれないかと声をかけていただき、数人の日本人留学生と共に、書道教室を開きました。現地の小学生から中学生を対象に、姿勢の作り方から、筆の扱い方などを説明した後、参加者の希望するお手本を作り実際に書道に挑戦してもらいました。初めは筆の扱いなどに苦戦していた子ども達も、後半には少しずつ慣れてきたようで、自分の作品を見せに来てくれたり、「黒と白だけなのにどうしてこんなに綺麗なの？」と声をかけてくれたり、少しでも日本書道の美しさや楽しさを分かってもらえた様子で嬉しく思いました。

【病院見学】

先月の Blanchard Valley Hospital の見学に続き、今月は Columbus にある OSU medical center、Nationwide Children's hospital を見学しに行きました。先月の病院見学を終えて、他にもアメリカの病院も見たい！という島田さん（医師:令和元年度奨学生）と私の希望に対し、それぞれの病院を紹介して下さい下さったフィンドレー大学のクリス先生、また Kose 医師には感謝しかありません。どちらの病院も非常に大規模な病院であり、何棟もの研究施設を持った地域の中核病院です。特に OSU medical center は、心臓移植が有名であり、アメリカ各地から心臓移植のために患者が集まってきており、またその技術を学ぶため多くの医療者が集まり医療チームが組まれていました。

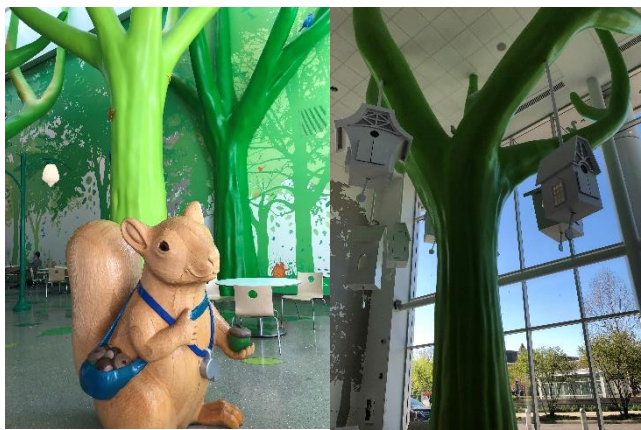


図 2：Nationwide Children's Hospital の内観

また Nationwide Children's Hospital は小児病院のため、子ども目線で病院がデザインされており、病院にいることを一瞬忘れてしまうかのような工夫が多々見られました。写真の通り、カフェスペースには森の中にいるかのように木々や動物のオブジェが置かれており、鳥かごからは鳥の鳴き声が聞こえてきました。そこで患者やその家族が心地良さそうに休憩していたのがとても印象的であり、自分が今後医療現場に戻るなら、そういった患者の想いを汲み取り、配慮した設備・関り等の工夫をしたいと強く思いました。病院に対する固定概念を良い意味で覆される経験となりました。

三つの病院を訪問し、多くの日本とアメリカの病院の違いを見つけ、それぞれの国の価値観や医療の歴史・制度なども関係していることを知り、非常に奥深く感じました。

【グローバルヘルスケア交流団体の結成】

国際医療やヘルスケアに関心のある医療者や学生が、各国の医療・ヘルスケアのホットトピックや制度を共有し、学ぶための団体をアメリカで出会った同志と結成しました。フィンドレー大学にはヘルスケアに関連した大学院のコースが複数あり、医療のバックグラウンドのある大学院生が沢山います。彼らの実際の経験を聞きながら、各国の医療事情を学ぶことは非常に興味深く、またフィンドレー大学で作ることのできた繋がりを維持し、更にそれを広げていく有意義なコミュニティになると考えています。一つひとつの出会いを大切にしながら定期的に活動を行い、励まし合える場にしていきたいです。

【フクビ USA への表敬訪問】

福井県奨学生として、フクビ USA を訪問させていただきました。訪問時には工場内を案内していただき、また製造されている製品やその品質管理に関し説明していただきました。スタッフの方々のレクチャーからは、仕事への情熱や製品に対する強い想いが感じられ、高い品質を維持し、更に顧客から信頼される企業の本質を学ばせていただきました。さらに私の留学内容のプレゼンをする場も設けていただき、プレゼン前には「緊張なさらず、みんな仲間ですよ」と非常にあたたかい雰囲気を作ってください、留学後は質問等いただくと同時にこれからの未来にエールの言葉を送っていただきました。

お忙しい中お時間を作っていただき、あたたかく迎えて下さったフクビ USA の皆様に感謝申し上げます。



図 3：フクビ USA の皆様

【まとめ】

毎年の奨学生の方々が書かれているように、本当にあっという間の 10 ヶ月間でした。色々な想いが込み上げますが、何より奨学生として選んでいただき、留学前には予想も出来

なかった数々の素晴らしい経験をさせていただいたことを非常に有り難く思います。また福井県国際交流協会の方々、フィンドレーで出会った方々、一緒に留学することが出来た福井県奨学生の島田さん、家族、友人達、これまで支えて下さった全ての方々に心より感謝申し上げます。

本報告書に関してご要望やお問い合わせ等ございましたら、以下のメールアドレスまでご連絡下さい。 furuichih@findlay.edu

2021-2022 フィンドレー大学・福井県奨学生 修了報告書

古市 陽香

初めに、福井県奨学生としてフィンドレー大学へ留学させていただき、これまで多くのご支援をいただけたことを光栄に思うと共に、心から感謝しております。これまでの月例留学報告書の中でも書かせていただきましたが、私が留学を決断した際はまだ病院で看護師として勤務していました。昼休憩中に、福井県国際交流会館から合格の電話を受け、喜びと共に、県の奨学生として留学を成功させることが出来るだろうかと大きな不安を感じたことをはっきりと覚えています。結果として、終了報告書を書かせていただいている今、この留学は私の人生に非常に大きな影響を与え、価値ある留学になったと自信をもって言うことが出来ます。この留学を通して、経験させていただけたこと、習得出来たことは数多くあり、その一つひとつの積み重ねが自分を大きく成長させてくれたと感じます。その中でも特に大きな収穫だと感じることは、Comfort Zone からの脱出、多文化の捉え方の変化、素晴らしい友人や人々との出会いです。

私は福井県生まれ福井県育ちで、20 年以上同じ土地、文化の中で暮らしてきました。通いなれた道、すっかり顔馴染みになったお店、子どもの頃から可愛がって下さったご近所さん達、ある種これまで同様の生活を続けることがアイデンティティのようにも感じて来ました。しかしこれはアメリカに到着した時点で全てリセットされ、その代わりに私がこれまでどんなバックグラウンドを持ち、どのような考え・価値観を持ち、将来をどう捉えている人かということが重視されました。フィンドレー大学で出会った沢山のひと々と毎日多種多様なトピックについて議論する中で、これまで気にもしなかった議題の意見を求められ、いかに自分の世界が狭かったのかを思い知らされました。これは大きく環境を変え、関わる人が変わったことで得られた結果だと思います。また、繰り返し様々な議題で話していくうちに他者の考えから自分の視点を広げられたことは勿論ですが、自分の考えの軸とするところも次第に明確となり、それにより自分の価値観を再認識出来るようになりました。これらもまた Comfort Zone から抜け出せた恩恵だと感じました。

またこれまで、多文化に対し知識として知っている内容はいくつかありましたが、実際に異文化に浸り、また他文化で育った人と自分の文化をどう認識しているのかをじっくりと話し合うことで、自分の文化の定義やその特異性についても考えることが出来ました。留学前は、文化というと外国に行かなければあまり触れ合う機会がないように感じていましたが、同じ日本でも地域が異なれば他文化であり、同じ地域であっても考え方や価値観が異なればそれもまた他文化であって、異文化交流を他者との交流と考えれば日本でも日々行っ

ていることでした。他文化理解を、他者を理解することと転換し、自分自身の許容範囲や価値観の程度を知り、それを広げていくことが出来たことは、他者の意見を取り入れ自分自身をアップデートすることに繋がり、自己の成長にとって大きな利益となったと思います。

最後に、この留学最大の財産だと言えるのは、留学を通して作り上げることが出来た人間関係です。一緒に福井県からの奨学生として留学した島田さん、その他全国から集まった日本人留学生、International students、現地の学生、先生方、医師、看護師、保健所長、本当に素晴らしい人々に出会い、支えていただきました。留学当初は、別れ際に涙を流してくれる友達や、「帰国後も連絡を取り続けましょう」と言って下さる保健所長や看護師等との関係が構築できるとは全く予想もしていませんでした。全ての出会いに感謝すると共に、留学後もこの繋がりを大切にしていける所存です。

この留学で得られたことは、私の人生の幅を広げ、今後のキャリア選択にもプラスに影響したと思っています。繰り返しになりますが、この機会を与えて下さり、サポートして下さいました全ての方に感謝するとともに、将来福井の地域保健に役立てるよう、今後とも邁進してまいります。本当にありがとうございました。